

授業へのパソコン導入の影響について

賢明女短大 本庄哲郎 ○田藤幸子

目的 いま社会の情報化がすすみ、情報機器は隔々にまで急速に浸透しつつある。しかしニューメディア教育元年といわれた1985年の普及率をみると先進国の100%導入との格差は大きい。導入の是非は様々に論じられる中で、短大の調理学実習の授業時に効率よく活用するための動機づけを目標に、昭和60年度より自作のプログラムおよび市販ワープロソフトを使用、これらの受講生に対する影響について調査、検討を試みたので報告する。

方法 Ⅰ、本学家政科学生 221名を対象に次の項目でパソコンについて意識状況を調査、

1) 入学前の知名度とその時期・機会・方法、イメージ、興味、保有率、使用頻度など

2) 入学後の興味・理解・難易度の変化および将来への期待など Ⅱ、家政専攻 調理学実習受講生145名を対象に毎回実施した教材について栄養価計算・グラフ作成(栄養・食品のバランスを示す)のプログラムを使用して整理、これらに対する意識状況を調査、Ⅲ、同専攻 特別研究受講生35名を対象に上記内容とワープロソフトを併用、各48種引用の料理ノート2部、栄養診断カードなどを作成、指導効果を検討。(PC9801-F2、-VM2を使用)

結果 対象学生は比較的簡単な操作でこれらの種類の使用が可能であることを知り、今回のいづれにも指導効果が認められた。即ち 1) 授業への興味、理解を深めるための補助教材 2) 情報化への関心を深める動機づけ 3) 受動的学生気質に対する活性化 4) 計算やグラフ作成のスピード化 5) グループから個別学習への効果 6) 栄養改善意識を高めるための媒体作りなど パソコン導入により実習活動の活性化をみた。今後、合理的食生活の実践を目標に 献立構成のプログラムとテキストとの関連づけを検討したい。